

## 東京工芸大学第2回「私立大学研究ブランディング事業」外部評価委員会開催報告書

日時：2018（平成30）年3月29日（木）16:00～17:40

場所：レンブラントホテル厚木 3階 白山  
（神奈川県厚木市中町二丁目13番1号）

### 出席者

#### （1）外部評価委員（出席者）氏名五十音順

荒井英明氏 厚木市 産業振興部長  
岡田幸勝氏 株式会社光学技研 代表取締役  
面谷信氏 一般社団法人日本画像学会 会長  
島田文生氏 公益財団法人コニカミノルタ科学技術振興財団 常務理事  
高橋晋也氏 一般社団法人日本色彩学会 会長  
時末誠氏 厚木市立小鮎小学校 校長  
中島淳一郎氏 神奈川県立厚木高等学校 総括教諭  
三矢輝章氏 株式会社リコー 研究開発本部A P T研究所 技師長

#### （2）学内関係者（出席者）

義江学長、野口色の国際科学芸術研究センターセンター長・芸術学部教授、内田同センター副センター長・工学部教授、酒井大学事務局長、山口教育研究支援課長、教育研究支援課職員2名（事務局）

### 議案（審議・協議・報告事項等）

#### 1. 挨拶及び配布資料の確認並びに前回議事録等の確認

初めに、学長の挨拶及び配布資料の確認があった。

次に、教育研究支援課長より、資料をもとに、第1回（2017年9月29日開催）東京工芸大学「私立大学研究ブランディング事業」外部評価委員会議事録の説明及び2016（平成28）年度「私立大学研究ブランディング事業」評価集計結果について説明があった。

※議事録は事前のメール審議によって承認済み

#### 2. 審議事項

- 1) 2016（平成28）年度「私立大学研究ブランディング事業」（申請関連）の件  
学長より、資料をもとに、学内の実施体制及び各会議体の活動並びに年次計画に基づいた2017（平成29）年度の目標について説明があった。

[年次計画]

##### ➤ 目標

- ① 「色の国際科学芸術研究センター」の施工完了
- ② 「色の体験学習型教育システム」のコンテンツ制作とギャラリーの一般公開開始
- ③ 重点研究テーマの確実な実施

##### ➤ 実施計画

- ① 実験室とギャラリーを備えた「色の国際科学芸術研究センター」の実施設計を行

い、それに基づく施工、ならびに什器の整備を行う。

- ② 「色の科学の基礎」を、写真、映像、拡張現実、プロジェクションマッピング、コンピュータグラフィックス、マンガ、ゲーム等のメディアアート的手段を用いて、わかりやすく楽しく伝える新たな体験学習型教育システムのコンテンツを制作する。
- ③ 3ヶ月に1回、「色の国際科学芸術研究センター管理運営委員会」を開催し、重点研究テーマの進捗状況を点検する。また年度末には、研究実績報告書（研究進捗度、論文、作品、学会発表等の記述を含む）の提出を義務付け、その内容に基づき「自己点検・評価部会」にて成果の検証を行う。

➤ 目標達成の測定方法

- ① 9月15日までに「色の国際科学芸術研究センター」の施工が完了していること。
- ② 年度末までに「色の科学の基礎」に関する体験学習型教育システムのコンテンツが制作され、これを展示するギャラリーを一般公開できる状態になっていること。
- ③ 自己点検・評価部会が定めた、研究進捗度、論文数、作品発表数、ギャラリーへの来場者数、公開講座、国際ワークショップの開催件数・参加人数等の指標にて目標達成度を測定する。

2) 色の国際科学芸術研究センター関連規程の件

教育研究支援課長より、資料をもとに、説明があった。

3) col. lab (カラボ) ギャラリーの件

色の国際科学芸術研究センター長（以下、センター長）より、資料をもとに、col. lab (カラボ) ギャラリー（以下、ギャラリー）の下記の活動について説明があった。

①第1回展示（テーマ：色をつくる、期間：2017年7月22日～2018年3月17日）

②ロゴマーク

③ギャラリーオープニングセレモニー実施報告

④2017年度ギャラリー来場者数

- ・12月以降、来場者が減っていることから、次年度は12月以降に何らかのイベントを実施する予定である。
- ・第1回外部評価委員会での指摘を踏まえ、10月から来場者の属性もチェックしている。

⑤アンケート結果

- ・第1回外部評価委員会での意見を参考に、11月からアンケートを実施している。
- ・アンケート結果を見ると、「色＝東京工芸大学」というイメージは未だ定着していない。
- ・インターネットでのアクセス数もチェックしている。

委員より、来場者が12月以降減った理由について質問があり、センター長より、「学内で催した他のイベントが無かったことが原因と思われる。」との回答があった。

また、委員より、「グラフの色が紛らわしい。」との意見があった。

4) インターネットによる広報活動の件

センター長より、資料をもとに、ホームページ、Facebook、YouTube の状況について説明があった。また、『2018年2月より、「カラボ・ビジュアル・プロジェクト」としてYouTube に本学卒業生が制作した作品3点を掲載している。なお、webサイトの英語版については、2018年3月から既に公開している。』との説明があった。

5) イベント関連の件

センター長より、資料をもとに、ブランディング事業に関連した実施済みのイベントについて説明があった。

6) 海外の大学との連携の件

学長より、資料をもとに、現状について下記のとおり説明があった。

- ・年次計画に基づき2017（平成29）年度中に4校との連携を図る予定であったが、連携できたのは中国文化大学及び東フィンランド大学の2校であった。
- ・残り2校については、2018（平成30）年度に実施する予定である。
- ・中国文化大学とは協定（覚書）を取り交わした。

7) 2017（平成29）年度「私立大学研究ブランディング事業」各研究プロジェクト進捗状況の件

色の国際科学芸術研究副センター長（以下、副センター長）より、各研究プロジェクトの進捗状況及びチェック体制等について、下記のとおり説明があった。

- ・数点を抜粋して研究プロジェクトの進捗状況を説明
- ・研究プロジェクトリーダーには、3ヶ月に一度、チェックリストを提出させている。
- ・3月10日にシンポジウム及び成果報告会を実施した。
- ・自己点検・評価部会は下記の方法で自己評価と点検・評価部会に依る評価をそれぞれ行った。

具体的には、第1回外部評価委員会での意見を参考に、「自己評価」と「自己でない評価」を実施し調査するものである。

実施の方法は、

①各研究者が寄与できる項目（寄与の分野項目）については、この事業開始時の5月に、文部科学省私立大学研究ブランディング事業委員会作成の参考資料「ブランディング戦略のイメージ」の各項目から、寄与項目として各研究者にアンケートを取っている。

②今年度末には、各研究代表者が進捗状況（4段階）を自己評価した。

③さらに、自己点検・評価部会が各活動実績などから4段階評価（A～D）を実施した。

委員より、「自己評価と外部評価が異なっていた場合はどのように評価するのか」との質問があり、副センター長より、「現在は刷り合わせが出来ていないが、今後は整合性を取っていきたい。」との回答があった。

委員より、「自己評価と外部評価が異なっていた場合、そのギャップを認識することが重要である。」との意見があった。また、「C評価のマンガは論文となりうるのか」との質問があり、副センター長より、「今回の評価部会での評価は活字業績、すなわち、すでに発表されたものを評価することが主体となっているため、このようなC評価とした。

但し、この評価のコメント欄にもあるように、学術論文でなくても、新しい分野の業績色（塗装）の技術を学ぶマンガなどは、今後、是非推進していきたい」との回答があった。

8) The 2nd International Conference on Culture Technology (ICCT) の件

学長より、資料をもとに、「2017年12月に本学中野キャンパスにおいて開催されたICCTにおいて、Color Science and Art という特別セッションを設け、ブランディング事業として研究発表を行った。」との説明があった。

9) 東京工芸大学「私立大学研究ブランディング事業」シンポジウム&成果報告会の件

副センター長より、資料をもとに、3月10日に開催したシンポジウム及び成果報告会の実施

内容等について説明があった。

- 10) 「色の国際科学芸術研究センター」管理運営委員会の件  
副センター長より、資料をもとに、管理運営委員会の活動内容について説明があった。
- 11) 東京工芸大学「私立大学研究ブランディング事業」事業推進実行部会の件  
学長より、事業推進実行部会について、「事業推進実行部会は組織図に記載はないが、柔軟かつ迅速に事業活動を行うため、学長が指名したメンバーによる部会を設け、毎月1回定期的に会議を行っている。」との説明があった。  
また、センター長より、資料をもとに、部会の審議内容について説明があった。
- 12) 全学研究支援委員会の件  
学長より、資料をもとに、委員会の審議内容について説明があった。
- 13) 今後の予定の件
  - ①2018(平成30)年度研究テーマの公募について
    - ・副センター長より、資料をもとに、『次年度の研究テーマ公募については、前年度採択者、新規申請者全てに対し、「審査要項の2. 審査基準」の下線部を特に重要視すると強調している。』との説明があった。
  - ②色覚を考える展について
    - ・センター長より、色覚を考える展のフライヤーをもとに実施内容について説明があった。
  - ③2018年度前期ギャラリー公開講座について
    - ・センター長より、資料をもとに、6月に実施した公開講座について説明があった。
  - ④その他
    - ・学長より、『本年7月に東京ビッグサイトで行なわれる「IGAS2018(国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展)」に「色」をテーマに3ブース出展する予定である。』との説明があった。
    - ・センター長より、『本年9月及び来年3月にワークショップを開催する計画がある。』との説明があった。
- 14) メディア掲載記事・新聞広告の件  
センター長より、資料をもとに、現在までにメディアに取り上げられた記事等の説明があった。
- 15) 大学の理念・目的及びポリシーと事業との適切性の確認について  
大学事務局長より、外部評価委員に適切性について意見を聴取した結果、特に問題がなく適切であるとの確認がなされた後、下記の意見があった。
  - ・委員より、「基本理念に人材育成とあるが、今回の事業に関して、学生自体の活動が表に出ていない印象がある。」との意見があり、センター長より、『「カラボ・ビジュアル・プロジェクト」等で学生に作品を制作させているが、今後は徐々に拡大していきたい。2018年9月以降の展示には学生を積極的に参加させたいと考えている。また、次年度には、授業科目を新設する予定である。」との回答があった。
  - ・委員より、「学生の実績も報告書に加えた方が良い。」との意見があった。
  - ・委員より、『映像作品「紅」等に代表される学生の優秀な作品(成果物)をもっと一般に告知(上映等)できるのではないか。』との意見があった。
  - ・委員より、『ブランディング事業に参加した(貢献した)学生は就職が有利になるというこ

となれば、モチベーションも上がるのではないか。』との意見があり、センター長より、「学生の認知度をもっと上げて行きたい。」との回答があった。

- ・委員より、「商工会議所としてももっと協力出来る事があると思われるので、今以上に商工会議所を利用していただきたい。また、あつぎものづくりプロジェクト（ATSUMO）と計画しているグッズ製作に関して、販売をきっかけにブランドが広がるのではないか。」との意見があった。
- ・委員より、「広報の一環として高校訪問されていると思うが、その際に、高校教員に対し、ブランディング事業の話をしているのか。所属する高校では、興味を示した教員がいた。進路指導教員に興味があれば、高校内に広がるのではないか。」との意見があった。
- ・委員より、「学内見学、学食利用、学生の授業参加、等々、小学校行事に対する日頃からの貴学の協力を感謝する。今後、学生の更なる授業参加等、検討いただきたい。」との要望があった。
- ・委員より、『次年度の研究テーマ公募の「審査要項の2. 審査基準」の下線部に「発信できるもの」とあるが、テーマの中には教員に発信を任せては難しいものがあるのではないか、発信自体を充実させた方が良いのではないか。』との意見があり、副センター長より、「その点については、補っていきたい。」との回答があった。
- ・委員より、「研究自体は単独なのか共同なのか、出来るだけ共同（連携）した方がより良いものが出来ると思われる。」との意見があった。また、『「IGAS2018（国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展）」に出展すると説明があったが、独立行政法人科学技術振興機構（JST）「イノベーション・ジャパン2018～大学見本市&ビジネスマッチング～」の方がふさわしいのではないか。』との意見があり、副センター長より、「本学では、JSTには特許・意匠出願を目標として、前年度に特許・意匠出願したテーマを中心に展覧している。」との回答があった。今後、ブランディングの特許出願（知財展開）も視野に入れ、今年度を含め、ブランディングの研究内容をイノベーション・ジャパンに積極的に申し込むようにしたいとの回答があった。

教育研究支援課長から、外部評価委員に対し、これまでの説明をもとに本事業に対する評価（平成29年度）について配布した「評価表」に記入・提出の依頼がなされた。

（※評価集計結果は別紙に記載）

全委員からの評価表の提出の後、最後に学長より閉式の挨拶がなされ、本委員会は終了となった。

以上

2018(平成30)年3月29日  
回答者:外部評価委員 8名

## 平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」外部評価委員会・評価集計結果

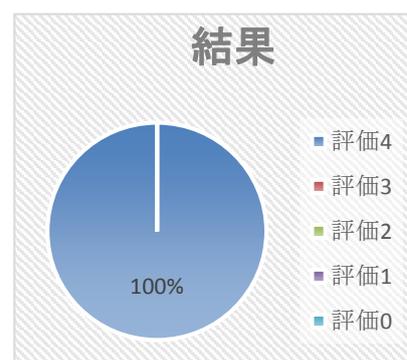
- ① 「色の国際科学芸術研究センター」の施工完了  
実験室とギャラリーを備えた「色の国際科学芸術研究センター」の実施計画を行い、それに基づく施工、ならびに什器の整備を行う。

### 【目標達成の測定方法】

9月15日までに「色の国際科学芸術研究センター」の施工が完了していること。

### ▽評価結果(8名回答/回答率 100%)

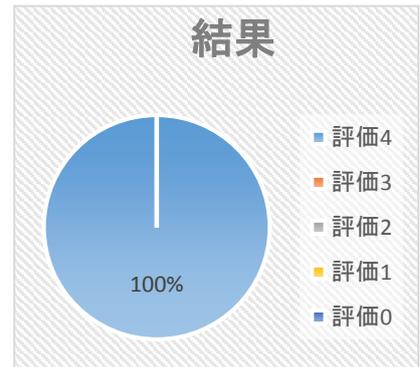
評価 4	十分行っている	8名
評価 3	行っている方である	
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	



- ② 「色の体験学習教育システム」のコンテンツ制作とギャラリーの一般公開開始  
「色の科学の基礎」を、写真、映像、拡張現実、プロジェクションマッピング、コンピュータグラフィックス、マンガ、ゲーム等のメディアアート的手段を用いて、わかりやすく楽しく伝える新たな体験学習型教育システムのコンテンツを制作する。
- 【目標達成の測定方法】  
年度末までに「色の科学の基礎」に関する体験学習型教育システムのコンテンツが制作され、これを展示するギャラリーを一般公開できる状態になっていること。

▽評価結果(8名回答/回答率 100%)

評価 4	十分行っている	8名
評価 3	行っている方である	
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	



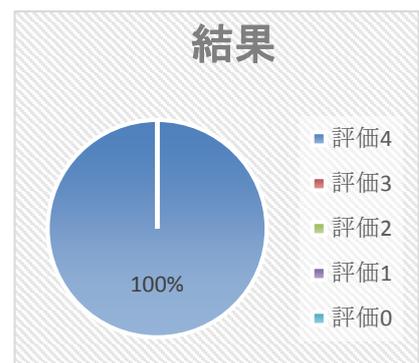
- ③ 3ヶ月に1回、「色の国際科学芸術研究センター管理運営委員会」を開催し、重点研究テーマの進捗状況を点検する。また年度末には、研究実績報告書(研究進捗度、論文、作品、学会発表等の記述を含む)の提出を義務付け、その内容に基づき「自己点検・評価会」にて成果の検証を行う。

[目標達成の測定方法]

自己点検・評価部会が定めた、研究進捗度、論文数、作品発表数、ギャラリーへの来場者数、公開講座、国際ワークショップの開催件数・参加人数等の指標にて目標達成度を測定する。

▽評価結果(8名回答/回答率 100%)

評価 4	十分行っている	8名
評価 3	行っている方である	
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	

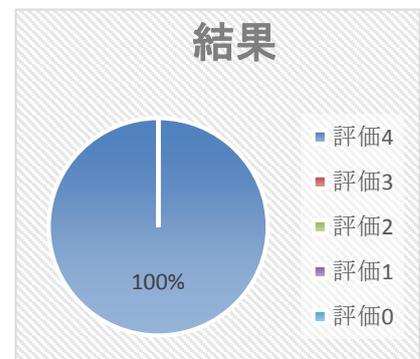


- ④ ブランディングへの取り組み(\*追加目標)

工学部と芸術学部を擁する本学ならではの取り組みについて、積極的に情報発信を行う。

▽評価結果(8名回答/回答率 100%)

評価 4	十分行っている	8名
評価 3	行っている方である	
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	



[本事業について、ご指摘・ご意見等ございましたら、ご記入ください]

4名記入

- ① 平成29年度も計画は達成していると思います。今後を期待します。

- ② IGAS に出展するとの事ですが、JST 主催のイノベーション・ジャパン出展も考慮したらいかがでしょうか？エビデンスが良く整っている印象です。
- ③ 研究成果ではなくブランディング成果を挙げるためには、ギャラリー、イベント以上に HP 発信だと思います。今回描かれたマンガなどは、ぜひ HP 掲載をご検討いただきたいです。ブランディング度の調査はぜひ継続してください。できればギャラリー参加者以外にも尋ねていただきたい。必ず右上がりになると思います。
- ④ 多方面で積極的に取り組んでいると思います。他業務もあるなか本当に素晴らしい事業展開をされていると思います。どこまでコンセプトが浸透するのかとても楽しみにしております。

以上